

# 救急年報報告入力要領

## 【ウツタイン様式】

### （病院外心肺機能停止患者記録）

## 消防庁救急企画室

この要領は、令和6年1月1日から令和6年12月31日までの救急蘇生統計（ウツタイン統計）データを統計調査系システム（救急・ウツタイン様式調査業務）に入力する要領を定めるものです。

## 1 救急蘇生統計（ウツタイン）

### （１）ウツタイン様式とは

ウツタイン様式とは、統一された用語、定義を用いて、心肺機能停止傷病者に関する記録を行う際のガイドラインである。「ウツタイン」の名称の由来は、1990年6月に、アメリカ心臓協会、ヨーロッパ蘇生会議の代表者が、ノルウェーのスタバングル近郊の小さな島にある史跡ウツタイン修道院にて、病院外心肺機能停止事例に関する用語や定義を統一するために会議を行った。さらに、第2回目の会議は、1990年12月にイギリスのサリーで、カナダ心臓及び脳卒中財団及びオーストラリア蘇生会議の代表者を含めて行われ、ガイドラインが示された。このガイドラインを、第一回会議の開催地であるウツタイン修道院の名にちなんで「ウツタイン様式」と呼ばれるようになった。

### （２）目的

#### ア 基本的な目的

- 蘇生可能な症例（一般的には目撃された心原性症例）を明確にし、より正確な救命率を導くこと。
- 国際的な比較に耐えうる正確な情報を入力することにより、わが国の救命率についての客観的な評価を行うこと。
- 各地域間の比較により、地域の救急医療体制の問題点を明らかにする定規とすること。

#### イ 今後の応用が期待される目的

- 病院到着前の心拍再開の意義など救命効果の向上に果たすプレホスピタル・ケアの役割をより客観的に分析・検証し、救急救命士の処置範囲拡大に含む救急業務の高度化を検討する際の基礎資料とすること。
- 応急手当に関する救命効果について、よりの確に検証し、今後の普及啓発の推進を図ること。
- 救急救命士による気管挿管等処置範囲拡大を伴う救命効果の検証を行うこと。

## 2 用語の定義及び入力要領

### (1) 用語の定義

用 語	定 義 の 内 容
心 肺 機 能 停 止	<p>脈拍が触知できない、反応がない（意識がない）、無呼吸あるいはあえぎ呼吸（死戦期呼吸）で確認される心臓機能の機械的な活動の停止である。</p> <p>【注】本調査では呼吸停止のみは含めない。</p>
バイスタンダーCPR	後述する「救急医療体制の構成員」以外の者によって救命手当が試みられること。
救 急 隊 等	<p>救急隊若しくは救急隊と連携して出場した消防隊。</p> <p>【注】救急医療体制に関与していない非番の消防職員（救急隊員・消防隊員・救急救命士等）については、救急隊等には該当せず、バイスタンダーとして扱う。</p>
一 次 救 命 処 置	<p>胸骨圧迫及び人工呼吸で心拍を再開させようとする行為をいう。</p> <p>【注】自動体外式除細動器を用いた除細動、窒息に対する気道異物除去も含まれる。</p>
二 次 救 命 処 置	一次救命処置に加え、高度な気道確保（気管挿管など）や静脈路などの確保と薬剤投与等の処置をいう。
入 電 時 刻 ～現場到着時刻	119番による通報の場合は、通信指令室で救急要請を入電した時刻（接続時間）から、救急車が現場に到着するまでの時刻である。
救急医療体制の構成員	救急隊をはじめ、連携した消防隊、ドクターヘリ、ドクターカー及び医師要請により現場に出場した医師等をいう。
機能力カテゴリー	<p>【脳機能力カテゴリー】 脳に関する機能を評価する分類法をいう。</p> <p>【全身機能力カテゴリー】 脳及び脳以外の状態も類別し、身体全体としての機能を評価する分類法をいう。</p>

## （２）入力の対象

対 象 事 例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急隊がＣＰＲを行い医療機関に搬送した（ドクターヘリ、ドクターカーに搬送した場合を含む。）全ての心肺機能停止傷病者（呼吸停止のみの傷病者は含まない。）の事例で（ア）、（イ）に該当するもの。</li> <li>・ 救急隊が医療機関に搬送した事例で（ウ）に該当するもの。</li> </ul>	
	（ア）救急隊が現場で傷病者を確認した時点において、心肺機能停止であった事例。
	（イ） 救急搬送途上において、心肺機能停止に陥った事例。
	（ウ） 一時的に心肺機能停止であったと推測されるが、救急隊到着時には心拍及び呼吸若しくは心拍又は呼吸のいずれかが再開していた事例。

○ 上記（ア）、（イ）に該当する事案のうち、次の場合はそれぞれ入力の対象外とする。

- 何らかの理由によりＣＰＲを行わず搬送した場合。
- 転院搬送等で救急隊がＣＰＲを行わず、医師、看護師等がＣＰＲを行った場合。

【注】「心肺蘇生の希望なし」の場合でも、ＣＰＲを行い医療機関に搬送した事案は、ウツタインの対象になります。

○ 転院搬送の場合は、それぞれの処理による。

[入力対象]

- 医療機関での心肺機能停止傷病者で、医師による一次救命処置のみの場合。
- 搬送途中に心肺機能停止になり、救急隊がＣＰＲを行った場合。

[入力対象外]

- 医療機関での心肺機能停止傷病者で、救急隊到着前に医師による二次救命処置（一次救命処置に加え、高度な気道確保（気管挿管など）や静脈路などの確保と薬剤投与等の処置をいう。）がすでに行われている場合。

## （３）記録すべき救急隊

記録すべき救急隊	理 由
傷病者を最終的に医療機関へ搬送した救急隊	<p>記録の重複を避けるため。</p> <p>【注】特に、P-A・A-A連携等の複数隊が活動する場合やドッキング活動や中継活動を行った場合には、十分留意する。最終的に医療機関へ搬送した救急隊が、現場等の傷病者情報や処置情報を先着救急隊等から聴取する。</p>

（４）入力要領

各項目については、下記のとおりとする。

ア 共通項目

前の画面へ戻る

都道府県

消防本部

救急隊

救急救命士搭乗

あり

計

4人

救急救命士

1人

准救急隊員

人

その他の隊員

3人

資格認定状況

☒ 気管挿管
☒ ビデオ喉頭鏡
☒ アドレナリン投与
☒ ブドウ糖投与
☒ CPA前静脈路確保
☐ 未認定

発生年月日

2024年1月1日

☒ 時刻経過

医師の乗車

なし

医師の2次救命処置

あり

事例No.

性別

女

年齢

85歳

登録状況

一時登録

各項目については、下記のとおりとする。

項目	入力要領
救 急 隊	<p>該当する救急隊名（最終的に医療機関へ搬送、若しくは、ドクターヘリやドクターカー等の医師に引き継いだ救急隊）を選択する。</p>
救急救命士搭乗	<p>① 救急活動に関わった出動隊に救急救命士が搭乗している場合「あり」を選択する。</p> <p>② 救急活動に関わった全ての救急救命士、准救急隊員、その他の隊員の合計の人数を入力する。</p> <p>【注】救急医療体制の構成員である救急救命士のみを対象としており、バイスタンダーとして現場に偶然居合わせた救急救命士はこの項目には該当しない。</p> <p>【注】「計」の欄には、救急救命士数、准救急隊員数、その他の隊員数の合計を入力すること。</p>
資格認定状況	<p>上記に該当する救急救命士それぞれの資格取得状況についてチェックする（複数選択可）。</p> <p>〔例〕救急隊長（気管挿管認定）、救急機関員（アドレナリン投与認定）隊員、（心肺機能停止前静脈路確保認定）の場合。 ⇒気管挿管、アドレナリン投与、心肺機能停止前静脈路確保（CPA前静脈路確保）のそれぞれにチェックする。</p> <p>【注】救急隊と連携した隊での資格認定救急救命士の資格についてもチェックする。</p>
医 師 の 乗 車	<p>救急活動に関与していた医師の救急車への同乗有無について選択する。</p>
医師の二次救命処置	<p>救急医療体制に関与していた医師の他、バイスタンダーとして現場に居合わせた医師、心肺機能停止に直面し救急車に同</p>

	<p>乗した往診中の医師等、全ての医師が現場又は救急車内において行った二次救命処置やその他医療行為の有無について選択する。</p> <p>【注】現場又は救急車内で行われたものに限り計上する。</p>
事 例 No.	<p>事例を特定するために入力する。</p> <p>【注】改行やハイフン、カンマ、飾り文字を入力しない。ランダムな数字を用いるのではなく、規則正しく、定型的な文字を本部で定めて用いることが望ましい。</p> <p>【例】西暦年＋本部No.＋年ごとの通し番号：2024*****001</p>
発 生 年 月 日	<p>救急事故を入電した年月日を入力する。</p> <p>【注】最終的な入力年月日が正しいか、発生年月日と入電年月日に時間的差異がないか、プルダウンメニューの選択が正しいか確認すること。入力担当者以外の者がダブルチェックすることが望ましい。</p>
性 別	心肺機能停止傷病者の該当する性別を選択する。
年 齢	<p>心肺機能停止傷病者の年齢を入力する。</p> <p>【注】年齢が不明な場合でも必ず推定年齢を入力する。</p>

## イ 心停止の目撃

1	2	3	メモ
<div>心停止の目撃</div> <div>目撃, または音を聞いた</div> <div>目撃時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分</div> <div>バイスタンダー種別 家族</div>			
<div>バイスタンダーCPR (AEDを含む)</div> <div>あり</div> <div>胸骨圧迫 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分</div> <div>人工呼吸 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分</div> <div>AED実施</div> <div>AED有無 現場にあった</div> <div>パッド装着有無 装着</div> <div>除細動適応 適応(実施)</div> <div>施行回数 2回 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 2 分</div>			
<div>初期心電図波形</div> <div>VF(心室細動)</div>			
<div>発生場所</div> <div>住宅</div> <div>住宅(2階以下)</div> <div>居室(居間、応接室、寝室など)</div>			
<div>発生階層</div> <div>地上</div> <div>1 階</div>			

- 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
心停止の目撃	<p>現場での情報収集に努めたうえで、「目撃または音を聞いた」、「既に心肺機能停止（発見時）」のいずれかを選択する。</p> <p>○「目撃、または音を聞いた」に該当するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 家族の目の前で「倒れた」、「ぐったりした」等、また、物音を聞いてすぐに駆けつけたところ倒れていた場合。</li> <li>➤ 交通事故等の目撃者からの通報で、救急隊等が現着時には心肺機能停止状態であった場合。</li> <li>➤ 通報時、通報者が生存を確認できたが、救急隊等が現着時には心肺機能停止状態であった場合。</li> </ul> <p>○「既に心肺機能停止（発見時）」に該当するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 心肺機能停止の瞬間を目撃していない例であって、家族等や現場に到着した救急隊・消防隊が発見・確認した時には既に心肺機能停止状態であった場合。</li> </ul>

- 「目撃、または音を聞いた」を選択した場合、これ以降の項目について入力する。

項 目	入 力 要 領
目 撃 時 刻	心肺機能停止の瞬間を目撃した、または物音を聞いた時刻を関係者より聴取し必ず入力する。
バイスタンダー種別	目撃、または音を聞いた人が誰であるか、以下の該当する項目から選択する。 バイスタンダーについてであり、「バイスタンダーCPR実施者」でなくても良い。
A 家 族	
B その他の バイスタンダー	(1) 友人 (2) 同僚 (3) 通行人 (4) その他：(1)～(3)に該当しない全てのバイスタンダー
C 消 防 隊	消防隊が救急隊と連携して出場し、救急現場に先に到着し、活動中に心肺機能停止となった場合。
D 救 急 隊	救急隊が傷病者に接触し、活動中に心肺機能停止となった場合や病院収容前に心肺機能停止となった場合。
E 救急救命士	救急救命士運用救急隊が傷病者に接触し、活動中に心肺機能停止となった場合や、病院収容前に心肺機能停止となった場合。

## ウ バイスタンダーCPR

1 2 3 メモ	
心停止の目撃	目撃, または音を聞いた 目撃時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 バイスタンダー種別 家族
バイスタンダーCPR (AEDを含む)	あり
	胸骨圧迫 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分 人工呼吸 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	AED有無 現場にあった パッド装着有無 装着
	AED実施 除細動適応 適応(実施) 施行回数 2回 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 2 分
初期心電図波形	VF(心室細動)
発生場所	住宅 住宅(2階以下) 居室(居間, 応接室, 寝室など)
発生階層	地上 1階

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
「バイスタンダーCPR」の有無	<p>目撃の有無に関わらず、救急隊等以外による胸骨圧迫・人工呼吸・除細動実施の有無について入力する。1項目でも実施している場合、「あり」になっていることを確認する。</p> <p>【注】「なし」の場合には胸骨圧迫、人工呼吸、AED（除細動）などの項目が全て「なし」になっていることを確認する。</p> <p>【注】バイスタンダーとは、倒れた人のそばにいた人という意味で、本来は心肺機能停止を確実に目撃した者、又は近くにいた者だけがバイスタンダーとなり得る。すなわち、心肺機能停止が目撃されていない症例では、その他に誰かがCPRを行ったとしても、正確にはバイスタンダーCPRとは言えない。しかし、当調査においては、心肺機能停止傷病者に対するCPRの実施総件数やすべての除細動実施症例などを検証する必要があることから、発見時に既に心肺機能停止の事例であってもCPRが行われていた場合には、バイスタンダーCPR「あり」とすること。</p>
「バイスタンダーCPR」の実施内容	<p>救急隊等以外によるCPRや除細動に関する次の項目について、実施の有無を選択する。実施の有無は、バイスタンダーより聴取することが望ましいが、聴取できない場合は、現場の状況により救急隊長等が判断する。</p>
胸 骨 圧 迫	<p>① 確実な胸骨圧迫を実施していたと確認・推定できる場合、胸骨圧迫「あり」を選択する。</p> <p>② 「あり」の場合には開始時刻を入力する。</p>



項 目	入 力 要 領
	【注】確実な胸骨圧迫とは、救急隊長等が客観的に判断して適切であると認められるものをいう。
人 工 呼 吸	① 人工呼吸の有無を選択する。 ② 「あり」の場合には開始時刻を入力する。
A E D 実施	① A E Dの有無について選択する。 ② 「現場にあった」を選択した場合には、パッド装着有無について選択する。 ③ 「装着」を選択した場合には、除細動適応について選択する。 ④ 「適応（実施）」を選択した場合には、施行回数及び初回ショックの開始時刻を入力する。 ⑤ 「不明」を選択した場合には、不明時の理由を記入する。

## エ 初期心電図波形

1 2 3 メモ	
心停止の目撃	目撃,または音を聞いた 目撃時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 バイスタンダー種別 家族
バイスタンダーCPR (AEDを含む)	あり
	胸骨圧迫 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	人工呼吸 あり 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	AED実施
	AED有無 現場にあった パッド装着有無 装着 除細動適応 適応(実施) 施行回数 2回 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 2 分
初期心電図波形	VF(心室細動)
発生場所	住宅 住宅(2階以下) 居室(居間、応接室、寝室など)
発生階層	地上 1階

➤ 入力については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
初期心電図波形	救急隊等が傷病者に接触し、最初に確認した心電図波形種別を選択する。救急隊等による心肺機能停止目撃事例で初期心電図が洞調律の場合は、「その他」を選択し、心電図波形の所見を入力する。(コンバート方式を利用する場合は特に必要なし。)  【注】初期波形が細かい心室細動で振幅が1mm以下のものは心静止と考える。

## オ 発生場所

1 2 3 メモ	
心停止の目撃	目撃、または音を聞いた▼ 目撃時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 バイスタンダー種別 家族▼
バイスタンダーCPR (AEDを含む)	あり▼
	胸骨圧迫 あり▼ 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分 人工呼吸 あり▼ 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	AED有無 現場にあった▼ パッド装着有無 装着▼ AED実施 速応(実施)▼ 除細動適応 施行回数 2回▼ 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 2 分
	初期心電図波形 VF(心室細動)▼
発生場所	住宅▼ 住宅(2階以下)▼ 居室(居間、応接室、寝室など)▼
発生階層	地上▼ 1階

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
発 生 場 所	<p>発生場所は、事故等の発生した場所又は傷病者のいた場所（救急業務実施基準第 24 条にいう、救急活動記録票等に入力すべき所要事項のうち発生場所）に基づき、以下の項目から選択すること。</p> <p>【注】発生場所が「住宅以外」の場合は中分類まで、「住宅」の場合は小分類まで入力する。</p> <p>【参考】詳細は別紙参照。</p>
住 宅	一般住宅及び高層住宅等で住居として使用している場所をいう。
公衆出入場所	多数の人が集まる場所をいう。
仕 事 場	工場、作業所、各種事業所等の仕事をしている場所をいう。
道 路	一般道路、高速道路、交差点、歩道及び歩道橋等をいう。
そ の 他	公園、広場、空地等をいう。（発生場所が不明なものを含む。）

## カ 発生階層

1	2	3	メモ
心停止の目撃	目撃、または音を聞いた <input type="checkbox"/> 目撃時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 バイスタンダー種別 家族 <input type="checkbox"/>		
バイスタンダーCPR (AEDを含む)	あり <input type="checkbox"/>		
	胸骨圧迫	あり <input type="checkbox"/>	開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	人工呼吸	あり <input type="checkbox"/>	開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 1 分
	AED実施	AED有無 現場にあった <input type="checkbox"/> パッド装着有無 装着 <input type="checkbox"/> 除細動適応 適応(実施) <input type="checkbox"/> 施行回数 2回 <input type="checkbox"/> 開始時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 2 分	
初期心電図波形	VF(心室細動) <input type="checkbox"/>		
発生場所	住宅 <input type="checkbox"/> 住宅(2階以下) <input type="checkbox"/> 居室(居間、応接室、寝室など) <input type="checkbox"/>		
発生階層	地上 <input type="checkbox"/> 1階 <input type="checkbox"/>		

➤ 入力については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
発 生 階 層	発生場所が住宅の場合は、必ず入力すること。

## キ 救急救命処置等の内容

1	2	3	メモ	
救急救命処置等の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 除細動 二相性 <input type="checkbox"/> 初回除細動実施時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 施行回数 1回 <input type="checkbox"/> 実施者 <input checked="" type="checkbox"/> 救急救命士 <input type="checkbox"/> 救急隊員 <input type="checkbox"/> 消防隊員 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 気道確保 <input checked="" type="checkbox"/> 特定行為使用器具(食道閉鎖式エアウェイ) <input type="checkbox"/> 特定行為器具挿入時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 12 分 <input checked="" type="checkbox"/> 静脈路確保 静脈路確保時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 14 分 <input checked="" type="checkbox"/> アドレナリン投与 アドレナリン投与時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 15 分 投与回数 1回 <input type="checkbox"/>			
	時間経過	覚知	2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分	
		現着	2024 年 1 月 1 日 10 時 10 分	
		接触	2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分	
		CPR開始	2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分	
		搬出開始	2024 年 1 月 1 日 10 時 22 分	
車内収容		2024 年 1 月 1 日 10 時 25 分		
現場出発		2024 年 1 月 1 日 10 時 26 分		
病院到着		2024 年 1 月 1 日 10 時 30 分		
病院収容	2024 年 1 月 1 日 10 時 31 分			
心停止の推定原因	心原性 <input type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/>			

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目		入 力 要 領
救急救命処置等の内容		救急隊等による処置及び救急救命士の特定行為処置のうち、実施した（成功した）処置についてチェックする。
	除 細 動	<p>除細動を実施した場合にチェックする。</p> <p>① 除細動を実施した機器の種別（二相性又は単相性）について選択する。</p> <p>② 「初回除細動実施時刻」を入力する。</p> <p>③ 「施行回数」について選択する。その際、必ず相互確認すること。</p> <p>【注】単相性は一方向に電流を流すもので、二相性は、一定時間プラスの電流を流し、次に逆方向〔マイナス方向〕に電流を流すものをいう。</p> <p>④ 除細動を実施した者の種別を選択する。 （複数チェック可能。） 「その他」はドクターカー等で出場した医師・看護師等が実施した場合に対象となる。</p> <p>【注】救急救命処置項目のため一般市民等による除細動は含まない。</p>
次の処置のうち、特定行為処置項目については、救急救命士による処置のみを対象とすること。また、医師が実施した場合は別項目の「医師による二次救命処置」欄は「あり」を選択する。		
	気 道 確 保	
	特定行為器具を使用しない 気 道 確 保	<p>用手気道確保、経口エアウェイ、経鼻エアウェイ、マギール鉗子・喉頭鏡を使用した異物除去等の処置を行った場合は、「気道確保」のみチェックする。</p> <p>【注】「特定行為使用器具」及び「特定行為器具挿入時刻」には入力しないこと。</p>

項 目		入 力 要 領
	特定行為器具を使用した 気 道 確 保	<p>① 特定行為器具の種類を選択する。（特定行為器具を途中で切り替えた場合は、医師引継ぎ時に気道確保に用いた器具とする。また、何らかの理由により特定行為器具を抜去した場合についても、それまで換気が適切に実施されていた場合は、特定行為器具使用ありとする。）</p> <p>【参考】LT（ラリングアルチューブ）、EGTA、CB（コンビチューブ）、EOA 咽頭カフタイプ（スミウエイ WB）を使用した場合は、「食道閉鎖式エアウエイ」を選択する。</p> <p>② 特定行為器具挿入時刻は、挿入した器具による確実な換気が確認できた時刻を入力する。</p> <p>【注】特定行為器具を使用した（成功した）場合に「気道確保」にチェックし、「特定行為使用器具」及び「特定行為器具挿入時刻」を入力する。</p>
	静 脈 路 確 保	<p>① 静脈路確保を実施した（成功した）場合にチェックする。</p> <p>【参考】当初は静脈路確保に成功し、確実な輸液の滴下を確認していたが、時間経過とともに何らかの理由により、滴下しなくなった、又は漏れが生じたため抜去した場合は、静脈路確保を実施したものとしてチェックする。</p> <p>【注】穿刺したが輸液路として一度も輸液を滴下できなかった場合はチェックしない。</p> <p>② 静脈路確保時刻は、確実な滴下を確認した時刻を入力する。</p>
	アドレナリン投与	<p>① アドレナリンを投与した場合にチェックする。</p> <p>② 「初回薬剤投与実施時刻」を入力する。</p> <p>③ 「投与回数」を選択し、必ず相互確認する。</p>

## ク 時間経過

1 2 3 ME	
救急救命処置等の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 除細動 <input type="checkbox"/> 二相性 初回除細動実施時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 施行回数 <input type="text" value="1回"/> 実施者 <input checked="" type="checkbox"/> 救急救命士 <input type="checkbox"/> 救急隊員 <input type="checkbox"/> 消防隊員 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 気道確保 <input checked="" type="checkbox"/> 特定行為使用器具 ( <input type="text" value="食道閉鎖式エアウェイ"/> ) 特定行為器具挿入時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 12 分 <input checked="" type="checkbox"/> 静脈路確保 静脈路確保時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 14 分 <input checked="" type="checkbox"/> アドレナリン投与 アドレナリン投与時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 15 分 投与回数 <input type="text" value="1回"/>
	<b>時間経過</b> 覚知 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 現着 2024 年 1 月 1 日 10 時 10 分 接触 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 CPR開始 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 搬出開始 2024 年 1 月 1 日 10 時 22 分 車内収容 2024 年 1 月 1 日 10 時 25 分 現場出発 2024 年 1 月 1 日 10 時 26 分 病院到着 2024 年 1 月 1 日 10 時 30 分 病院収容 2024 年 1 月 1 日 10 時 31 分
	心停止の推定原因 <input type="text" value="心原性"/> <input type="text" value="確定"/>

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
入 電	<p>入電した時刻、一般的には 119 番による通報の入電時刻（接続時刻）を入力する。指令システム上、入電時刻を設定できない消防本部については、その推定時刻を入力した上、現着時刻や CPR 開始時刻などの時間経過に齟齬がないか、必ず相互確認する。</p> <p>【注】 P-A 連携等で一事案に複数隊が対応した場合には、より早く当該心肺機能停止傷病者に対応した隊の入電時刻を入力する。</p>
現 着	<p>救急隊等が出場指令番地の建物及びその周辺に到着し、停車した時刻を入力し、必ず相互確認する。</p> <p>【注】 消防隊等との同時出場等の場合は、最先着隊の到着時刻を入力する。</p>
接 触	<p>救急隊等のうち最初の 1 名が、傷病者に接触（傷病者のそばに到着）し、観察を開始した時刻を入力し、必ず相互確認する。</p> <p>【注】 消防隊等との同時出場等の場合は、観察、応急処置等の救急活動を行った先着隊の接触時刻を入力する。</p>
C P R 開始	<p>救急隊等による C P R の開始時刻を入力する。心肺機能停止と心拍再開を繰り返す場合には、最初に C P R を実施した時刻を入力する。</p>

項 目	入 力 要 領
	【注】P-A連携等で一事案に複数隊が対応した場合には、最先着隊のCPR開始時刻を入力する。
搬 出 開 始	傷病者を車内収容へ向け搬出開始した時刻を入力する。
車 内 収 容	傷病者を救急車内へ収容した時刻を入力する。
現 場 出 発	傷病者搬送のために、医療機関等へ向けて現場を出発した時刻を入力する。
病 院 到 着	医療機関等の敷地内に到着した時刻を入力する。
病 院 収 容	<p>医療機関に到着し、医師に傷病者を引き継いだ時刻（医師の管理下に置かれた時刻）を入力する。</p> <p>【注】車両が病院に到着した時刻ではない。  [例] ドクターヘリ又はドクターカーに引き継ぎ、機内又は車内に収容した場合は、医師の管理下に置かれたものとして、機内又は車内に収容した時刻を入力する。</p>

## ケ 心肺機能停止の推定原因

1 2 3 メモ	
救急救命処置等の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 除細動 <span>二相性</span> 初回除細動実施時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 施行回数 <span>1回</span> 実施者 <input checked="" type="checkbox"/> 救急救命士 <input type="checkbox"/> 救急隊員 <input type="checkbox"/> 消防隊員 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 気道確保 <input checked="" type="checkbox"/> 特定行為使用器具( <span>食道閉鎖式エアウェイ</span> ) 特定行為器具挿入時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 12 分 <input checked="" type="checkbox"/> 静脈路確保 静脈路確保時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 14 分 <input checked="" type="checkbox"/> アドレナリン投与 アドレナリン投与時刻 2024 年 1 月 1 日 10 時 15 分 投与回数 <span>1回</span>
	覚知 2024 年 1 月 1 日 10 時 0 分 現着 2024 年 1 月 1 日 10 時 10 分 接触 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 CPR開始 2024 年 1 月 1 日 10 時 11 分 搬出開始 2024 年 1 月 1 日 10 時 22 分 車内収容 2024 年 1 月 1 日 10 時 25 分 現場出発 2024 年 1 月 1 日 10 時 26 分 病院到着 2024 年 1 月 1 日 10 時 30 分 病院収容 2024 年 1 月 1 日 10 時 31 分
	心停止の推定原因 <span>心原性</span> <span>確定</span>

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
心停止の推定原因	収容先医療機関等の医師の見解に基づき、「心原性」、「非心原性」のいずれかを選択する。1ヵ月後予後を調査する際にも再度確認し、収容時と判断が異なる場合には、修正すること。
心 原 性	心原性と確定できるものについては、「確定」を選択する。また、心原性と確定できないが非心原性と特定できない場合については、「除外診断による心原性」を選択する。
非 心 原 性	非心原性については、その具体的項目を選択する。

### 【参考】

- 医師の見解に基づき心原性か非心原性かを入力するが、医師による判断が困難な場合は、事故概要に基づき救急隊長が判断して心原性か非心原性かを入力すること。
- 最終的に判断が困難な場合は除外診断による心原性とする。

項 目	入 力 要 領
心原性に属するもの	非心原性以外のもの
	老衰（除外診断の心原性とする。）
	浴槽内での心停止（明らかに溺死と判断できる場合を除く。）
	その他原因特定が困難な症例については、除外診断に基づく心原性とする。



項 目	入 力 要 領
非心原性に属するもの	脳血管障害：脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等
	悪性腫瘍
	大動脈疾患：大動脈解離・破裂等
	その他内因性：他に分類されない心原性以外の内因性
	窒息
	中毒
	溺水
	低体温
	アナフィラキシー
	縊頸
	その他外因性：熱中症、心臓震盪、熱傷等
	交通外傷
	その他外傷：交通事故以外の全ての外力による損傷、墜落、転落、刺創等

## コ 転帰及び予後

1	2	3	メモ
<div> <div>転帰及び予後</div> <div> <div>病院収容前の心拍開始:</div> <div>あり</div> <div>初回心拍再開時刻</div> <div>2024</div> <div>年</div> <div>1</div> <div>月</div> <div>1</div> <div>日</div> <div>10</div> <div>時</div> <div>28</div> <div>分</div> </div> </div>			
<div> <div>1ヶ月予後回答:</div> <div>あり</div> <div>1ヶ月以内の転退院した日付</div> <div>2024</div> <div>年</div> <div>1</div> <div>月</div> <div>9</div> <div>日</div> </div>			
<div> <div>1ヶ月生存:</div> <div>あり</div> </div>			
<div> <div>脳機能カテゴリー (CPC)</div> <div>CPC1 機能良好</div> </div>			
<div> <div>全身機能カテゴリー (OPC)</div> <div>OPC1 機能良好</div> </div>			
<div> <div>心肺蘇生の希望なし</div> <div><input type="checkbox"/> 希望なしの場合チェック</div> </div>			
<div> <div>死体徴候</div> <div>なし</div> </div>			

➤ 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
病院収容前の心拍再開	① 病院収容前の心拍再開の有無について選択する。 ② 「あり」の場合は「初回心拍再開時刻」を入力する。  【注】心肺機能停止と心拍再開を繰り返すことも考えられるため、初回到心拍再開した時刻を入力する。時刻に関しては、必ず相互確認する。また、一般市民等の除細動により回復した場合は、その時刻を入力する。
1ヵ月後予後回答	① 1ヵ月後予後について、医療機関より回答が得られた状況の有無を選択する。 ② 1ヵ月以内に転退院した場合、転退院した日付を入力する。
1ヵ月後生存	1ヵ月後予後の回答があった事例について、1ヵ月後の生存

項 目	入 力 要 領
	<p>の有無を選択する。</p> <p>なお、1ヵ月以内に生存退院もしくは転院した場合は、1ヵ月後生存「あり」を選択する。</p> <p>（回答待ちは、仮登録時に使用する）。</p> <p>【注】初療室等で死亡が確認された場合は、1ヶ月後予後回答「なし」、1ヶ月後生存「なし」を選択すること。</p>
機能カテゴリー	<p>転退院若しくは入院中で1ヵ月後生存「あり」の症例について、転退院時又は1ヵ月後予後回答時の傷病者の機能状態について該当項目を選択する。</p> <p>【注】1ヵ月以内に転退院した事案についてはその転退院時の評価によること。（追跡調査の必要はない）必ず、いずれかの項目を選択する。</p> <p>なお、入力の際は次のことに留意すること。</p> <p>〔例〕1ヵ月後生存が「なし」の場合。 ⇒CPC、OPC共に5を選択する。</p> <p>〔例〕植物状態の場合。 ⇒CPC、OPC共に4を選択する。</p>
脳機能カテゴリー（CPC）：以下のいずれかの項目を選択する。	
CPC1：機能良好	意識は清明、普通の生活ができ、労働が可能である。障害があっても軽度の構音障害、脳神経障害、不完全麻痺などの軽い神経障害あるいは精神障害まで。
CPC2：中等度障害	意識あり。保護された状況でパートタイムの仕事ができ、介助なしに着替え、旅行、炊事などの日常生活ができる。片麻痺、けいれん、失調、構音障害、嚥下障害、記憶力障害、精神障害など。
CPC3：高度障害	意識あり。脳の障害により、日常生活に介助を必要とする。少なくとも認識力は低下している。高度な記憶力障害や痴呆。“Locked-in”症候群のように眼でのみ意思表示ができるなど。
CPC4：昏睡、植物状態	意識レベルは低下、認識力欠如。周囲との会話や精神的交流も欠如。
CPC5：死亡、若しくは脳死	【注】1ヵ月後生存「あり」の場合で、CPC、OPC共に5は臨床上まれであることから入力する際には留意すること。
全身機能カテゴリー（OPC）：以下のいずれかの項目を選択する。	
OPC1：機能良好	健康で意識清明で正常な生活を営む。CPC1であるとともに脳以外の原因による軽度の障害。
OPC2：中等度障害	意識あり。CPC2の状態。あるいは脳以外の原因による中等度の障害、若しくは両者の合併。介助なしに着替え、旅行、炊

項 目		入 力 要 領
		事などの日常生活ができる。保護された状況でパートタイムの仕事ができるが、厳しい仕事はできない。
	OPC3：高度障害	意識あり。CPC3の状態。あるいは脳以外の原因による高度の障害、若しくは両者の合併。日常生活に介助が必要。
	OPC4：昏睡、植物状態	意識レベルは低下、認識力欠如。周囲との会話や精神的交流も欠如。CPC4の状態。
	OPC5：死亡、若しくは脳死	【注】1ヵ月後生存「あり」の場合で、CPC、OPC共に5は臨床上来たことであることから入力する際には留意すること。
	心肺蘇生の希望なし	<p>以下の項目全てに該当した場合にチェックする。</p> <p>① 救急活動時、書面や口頭で家族、介護施設職員、医師等から傷病者本人の心肺蘇生を望まない意思を伝えられた。 (119番通報時や医療機関到着後も含む)</p> <p>② 救急隊等が現場到着時、傷病者は病死又は自然死が差し迫り※、心肺機能停止の状態であった。</p> <p>【注】外因性（交通事故、転倒・転落、溺水、煙・火災及び火焰による傷害、窒息、中毒、自殺、他殺、その他及び不詳の外因）が考えられる場合は調査対象外。</p>
	死 体 兆 候 (心肺機能停止後、 長時間経過している と思われる徴候)	<p>搬送した心肺機能停止傷病者が次に項目のすべてに該当した場合、「あり」を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 意識レベルが、JCS300であること。</li> <li>➤ 呼吸が全く感ぜられないこと。</li> <li>➤ 総頸動脈で脈拍が全く触知できないこと。</li> <li>➤ 瞳孔の散大が認められ、対光反射が全くないこと。</li> <li>➤ 体温が感じられず、冷感が認められること。</li> <li>➤ 死後硬直又は死斑が認められること。</li> </ul>

## サ その他

- 各項目については、下記のとおりとする。

項 目	入 力 要 領
メ モ 欄	100 文字まで入力可能とする。この内容はオンラインで送信されるが、報告項目としては扱われないため、事後検証時の評価や医師のコメント用等、任意のメモ欄として使用可能である。なお、入力に際して、カンマ、ハイフン、飾り文字、スペース、改行などは行わないこと。
留 意 事 項	
データ入力者のみならず現場出場の救急隊員等複数の者による相互確認のもとに入力すること。特に、以下の点に留意すること。	
自由入力欄	欄内での改行やカンマ挿入は、データ変換の際に、コンバータによるエラーがおこるため、改行、半角文字、スペース、コンマ、飾り文字（株、No.、♂ 等）などの入力を行わないこと。
時 刻	時刻に関するデータ項目は、非常に重要なデータであるため、次の点に注意すること。 ➤ 空欄にならないようにする。 ➤ 前後の項目から勘案して、矛盾がないようにする。 [例] 目撃なし事案で目撃時刻が入力されている。 [例] CPR開始時刻が目撃時刻よりも早い。
プルダウンメニュー	正しい選択肢が選択されているかを確認すること
複数の救急隊が対応した場合	複数の救急隊が活動した場合、また、広域的に救急活動を実施した場合等には、同一の事案を重複して登録しないこと。
入力処理について1	本調査は、統計調査系システム（救急・ウツタイン様式調査業務）のうち、活動事案毎データ登録又は2005年からのウツタインシステム登録のいずれか一方に情報入力を行うこととしており、双方のシステムに入力処理を行うと二重登録となるため留意すること。
入力処理について2	救急調査オンライン処理システムにおいてウツタイン情報を入力する場合、時間経過、救急救命処置などは、ウツタイン情報入力画面（傷病者情報9～10-2）に入力されたものが当該情報として反映されるため留意すること。  [例] 傷病者情報5の応急（救急救命）処置内容はウツタイン情報には反映されない。

## 発生場所の分類

大分類	住宅	
中分類	住宅（２階以下）	高層住宅（３階以上）
小分類	A 居室：居間、応接室、寝室等の部屋 B 廊下・通路：廊下、玄関等の通路 C 階段：階段、踊場 D 便所：便所 E 浴室：浴室、シャワー室、洗面所 F 台所：台所、食堂 G エレベーター：エレベーター内 H 屋根・屋上：屋根、屋上、物干し台、ベランダ、バルコニー等 I 庭：庭、テラス（当該建物の敷地内の空地） J その他：上記Ａ～Ｉに該当しない場所（物置、地下室、車庫等）	
大分類	公衆出入場所	
中分類	A 劇場、映画館、演芸場、観覧場：劇場、映画館等の観覧場 B 公会堂、集会場：会議、社交等の目的で多数の人々が集まる場所 C キャバレー、カフェー、ナイトクラブ：キャバレー、カフェー、ナイトクラブ D 遊技場、ダンスホール：ダンスホール、ボウリング場、ゲームセンター、パチンコ等の各種遊技場 E 待合、料理店、飲食店：待合、料理店、飲食店 F デパート：百貨店、延べ面積 1,000 ㎡以上の大規模な小売店舗 G マーケット、店舗、展示場：物品の販売、賃借、修理業の店舗、サービス業の店舗等あらゆる店舗、はり灸マッサージ業、接（整）骨院 H 旅館、ホテル、宿泊所：旅館、ホテル、宿泊所（バンガローを含む。） I 病院：病床数 20 以上の医療機関 J 診療所（医院）：病床数 19 以下の診療所、医院 K 老人ホーム：老人ホーム、老人保健施設等の老人の収容施設 L 幼稚園（グラウンド、附属設備を含む。）：幼稚園、保育園等の保育施設 M 盲・ろう学校、養護学校（グラウンド、附属設備を含む。） N 小・中・高・大学（グラウンド、附属設備を含む。） O 各種学校（グラウンド、附属設備を含む。）：学校教育法にいう各種学校の許可を受けているもの（大学校、保健師・看護師学校、洋裁学校、塾等） P 図書館、博物館、美術館：図書館、博物館、美術館、郷土館、記念館、画廊等 Q 公衆浴場、蒸気・熱気浴場：公衆浴場、蒸気・熱気浴場 R 駅構内（ホーム等駅の附属設備を含む。）：駅舎、ホール、電車内等 S 空港（整備工場、格納庫を除く。）：滑走路、誘導路、ヘリポート（建物は除く。） T 寺社、教会（境内を含む。）：寺、神社、教会（斎場、墓地を含む。）	

	U 映画・テレビスタジオ：映画・テレビスタジオ（構内を含む。） V 駐車場、車庫：駐車場、車庫（一般住宅、高層住宅の車庫、駐車場を除く。） W 地下街（地下街にある店舗及びそれに付随するもの。）：地下街、地下通路及び上記 F・G を除くビルの地下売店 X 運動場、競技場（グラウンド、附属設備を含む。）：野球場、ラグビー場、競技場等の各種競技場、運動場（学校等のグラウンドを除く。）及び各種の練習場、道場等のスポーツ施設 Y 水泳場、プール（附属設備を含む。）：屋内プール、屋外プール Z 官公庁：官公庁、大使館、公使館、領事館、銀行等の公共施設（上記 A～X に該当しない公共施設を含む。） A' その他：上記 A～Z に該当しないもの（動物園、遊園地、キャンプ場等）
大分類	仕事場
中分類	A 工場（敷地を含む。）：工場 B 屋内作業所：工場以外の屋内作業所 C 屋外作業所：工場以外の屋外作業所 D 屋内工事現場：建設又は建築の屋内の場所 E 屋外工事現場：建設又は建築の屋外の場所 F 事務所：各種事業所の事務所 G 地下室：工場、作業所、各種事業所及び倉庫の地下室 H 格納庫（飛行機、ヘリコプター）：飛行機、ヘリコプター等の格納庫 I 倉庫：倉庫（地下倉庫を除く。） J その他：A～I に該当しないもの
大分類	道路
中分類	A 一般道路（歩道及び歩道橋等を含む。）：道路法でいう道路（自動車専用道路及び交差点を除く。）一般交通の用に供する場所 B 交差点 C 自動車専用道路 D 高速自動車国道
大分類	その他
中分類	A 公園：公園、庭園、児童公園、遊歩道等 B 広場（公共用） C 空地（庭、広場以外）：河川敷、堤防、更地等の空地 D 河・池：河川、運河、池、沼、貯水池等 E 山林・原野：山、森林、原野、ゴルフ場 F 農地：田、畑等の農地 G 海 H 軌道敷、踏切：軌道敷内及び踏切 I その他：上記 A から H に該当しないもの（発生場所が不明なものも含む。）

## よくある質問

### 問 1

ウツタイン統計における時間経過の取扱いについて、入電時刻等は先着隊に準じて入力することによろしいか。

(答)

お見込みのとおり。

救急隊に限らず先着した消防機関(消防隊含む)が現着、接触、または CPR を開始した時間時刻を入力すること。

### 問 2

心拍再開とは、傷病者の総頸動脈が触知された場合でよいか。

(答)

お見込みのとおり。

### 問 3

開業医を受診した傷病者が、診察中に心肺停止になり転院搬送になった場合、ウツタイン報告の対象となるか。

(答)

開業医による二次救命処置が行われていない場合で、転院搬送の際に救急隊が CPR を実施し搬送した場合にあっては、ウツタイン報告の対象として取り扱うものであること。

### 問 4

傷病者が医療機関内で心肺停止になった場合、その場にいた医師・看護師はバイスタンダーとなるのか。また、駆けつけた医師・看護師はバイスタンダーとなるのか。

(答)

前述お見込みのとおり。後述、駆けつけた医師・看護師は二次救命処置を目的として駆けつけるものであり、バイスタンダーとはならない。

### 問 5

バイスタンダーCPR の有効性は、救急隊が客観的に見て「有効でない」と判断すれば、バイスタンダーCPR なしとなるのか。

(答)

お見込みのとおり。

### 問 6

早産・流産により娩出された児が心肺停止であった場合、ウツタインの対象となるのか。

(答)

CPR を行い医療機関に搬送した場合は、ウツタインの対象として取り扱うものであること。